TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

カの福音　光の子どもたち

エペソ 5:8-14

2023 年 11 月 18 日 & 19 日

余沢 武　牧師

I.　はじめに

皆さんようこそいらっしゃいました。 来週は、TBC 名誉主任牧師のデニス・フォールズ牧師が、5 回の礼拝全てでメッセージをお届けします。また、デニス牧師とジュディ先生は、土曜日午前 10 時から「天使」についての学びを担当します。お見逃しなく。

「**エペソの信徒への手紙**」では、神に新しく造られた民、つまりクリスチャンであっても、「**罪の習慣**」を脱ぎ捨て、「**神の品性**」を身につける必要があることを学びました。

先週、私たちは神を模範として、敵をも犠牲的に愛し、性的不道徳、不純、貪欲から遠ざかる必要があることを学びました。今日はなぜこのことが重要なのかを見ていきましょう。でははじめに、祈りましょう。

II.　光の子どもたち

(1) かつては闇、今は光

エペソ 5:8-10 を開きましょう。「**あなたがたは、以前は闇でしたが、今は主にあって光となっています。光の子として歩みなさい。光の結ぶ実は、あらゆる善と義と真理との内にあるからです。主に喜ばれるものが何かを吟味しなさい。**」

これが、敵を愛する理由であり、性的不道徳、不純、貪欲に抵抗しなければならない理由であるとパウロは言っています。「**あなたがたは、かつては闇でしたが、今は主にあって光となっています。**」と。

私は現代の最も偉大な発明のひとつは GPS システムだと思います。私は若い頃、旅に出るときには地図を手に入れ、自分で歩いて新しい場所を探検し、そしてよく道に迷っていました。

でも、私は人に道を聞くのが嫌いだったので、さらに 2～3 時間歩き回り、どうしようもないほどに迷った挙句の果てに、ようやく誰かに助けを求めるのです。

ある意味では、イエスに助けを求める前の私たちの状態がそうだったのです。私たちは完全に道に迷っていました。歩けば歩くほど、迷いは深まりました。私たちは完全な暗闇の中にいました。しかし、ついに私たちはイエスのもとに来て、光の中に入りました。まるで GPS マップにつながっているかのようです。

私たちは自分がどこにいて、どこへ行くのかを知っています。たとえそれが行ったことのない場所でも。私たちの GPS であるイエス様とつながっているからこそ、これが可能になるのです。イエス様は私たちがどこにいて、どこへいくべきかをご存じだからです。

ここで驚くのは、パウロは、「**私たちが光の中にいる**」とは言っていないことです。彼は「**私たちは光である**」と言っています。イエスにおいて、私たちは自分自身とほかの人々を導く光となるのです。そのためには、「**光の子として歩み**」、「**光の実を結ぶ**」べきなのです。光の実とはつまり、善、義、真実のことです。
善：寛大さ、犠牲的に人のために何かをすること。犠牲的な愛の表現。
義：神の基準を尊ぶこと。不道徳や貪欲を拒否すること。
真実：正直に真実を話すこと。嘘や偽りを拒否すること。

光は、犠牲的な愛を担い、不道徳や貪欲、嘘や偽りを拒否します。しかし、これらすべての背後には根本原則、もしくは動機があります。私たちは、「主に喜ばれることは何か」を試すのです。つまり、神を喜ばせたいという願いをもって全てのことを行うのです。

我が家には、ほとんど開けることのない引き出しにしまってある薄い平らな紙の箱があります。その箱は 15～20 年前からそこにあります。 箱には小さな紙切れが貼ってあり、”DAD ”と書いてあります。

中には 10～15 枚の小さな紙が入っていて、いろいろな絵やかわいいキャラクターがスタンプされていま

す。娘が3～5 歳のころ、父の日か私の誕生日に娘からもらったプレゼントでした。

絵はかわいいです、でも幼児が描く絵です。正直なところ、それをどうしたらいいかわからないのです。でも、それを捨てることはできません。この絵を見ていると、特別な時間を思い出すのです。
娘は何かを描くと、私かミキにプレゼントしたがったのです。彼女はいつも私たちを喜ばせたかったのです。

子どもは小さくて無邪気なとき、親を全面的に信頼し、頼ります。親を愛しています。親を喜ばせること以外、何もしたがりません。それがまさに神が、ご自身の子供たちに望んでいることなのです。私たちも、天の父に対してそのような態度を示す必要があります。

だからこそ、説教者として神の御言葉を説くとき、私を最も祝福するのは、賛辞や感謝の言葉ではありません。もちろん、それは嬉しいことではありますが。誰かが「神が私に語りかけてくださった。御言葉にこれからは従います。」とか「これからはもう、それをやめます」などと言うのを聞いたときに祝福を感じるのです。

それを聞くと、彼らが、私が説教する間、私とではなく、神と時間を過ごしていたことがわかるからです。その説教の間、神は彼らに語りかけていたのです。そして彼らは、神を喜ばせるために自分にできることは何でもやりたいと願いながら、神に耳を傾けていたのです。

このような態度をもち、たとえ QT や SG、聖書の学びの時間でさえも、私たちは世の光となるのです。つまり、私たちは敵を犠牲的に愛し、不道徳と貪欲を否定し、偽りのない真実を語ることを学ぶのです。

(2) 闇の働きを暴く

v.11-14:「実りのない闇の業に加わらず、むしろそれを明るみに出しなさい。彼らがひそかに行っていることは、口にするのも恥ずかしいことなのです。しかし、すべてのものは光によって明るみに出されて、明らかにされます。明らかにされるものはみな、光だからです。それゆえ、こう言われています。『眠っている者よ、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる。』」

だから、光である私たちは、暗闇の実を結ばない業に加わってはなりません。私たちは恨んだり、怒ったり、不道徳になったり、貪欲になったり、人を欺いたりしてはならず、それらについて言及することすらしてはいけません。テレビ、インターネット、映画など、さまざまなメディアを通して、私たちの心をそれらで汚してはならないのです。そうではなく、私たちの光、つまり敵に対する犠牲的な愛、不道徳や貪欲に対する抵抗を通して、それらを明るみにさらすのです。

人の部屋はとても汚いことがあります。しかし、誰かが明かりをつけない限り、それを見ることはできません。しかし、それが見えない限り、きれいにすることはできません。パウロは言っています。「**クリスチャン、あなたがたは光です**」だからこそ、私たちはそれらに参加するのではなく、光を放ち、それらを暴露するのです。

こう考える人がいるかもしれません。もし私が彼らのしていることに加われば、クリスチャンもそんなに違わないのでは、と彼らが思うだろうと。そして、彼らがクリスチャンになりたいと思うかもしれないと。

もしくは、もし私が彼らと一緒に怒ったり、ゴシップを言ったりすれば、彼らは私たちともっと共感をもち、クリスチャンにもっと心を開いてくれるかもしれない、キリスト教に心を開いてくれるかもしれないと。

あるいは、偶像礼拝であれ、不道徳であれ、泥酔であれ、嘘であれ、性的な冗談であれ、私が少し妥協して付き合えば彼らは気に入り、もっとクリスチャンに心を開いてくれるかもしれないと。

パウロは言っています。「**いいえ、私たちは闇の業に参加すべきではありません。私たちは光を放ち、闇を暴くのです。そうすれば、私たちの行いがまったく違うものであることを知ることで、彼らは初めて光を見ることができるのです。**」

実際のところ、私たち自身、光の完璧な実を結ぶ完璧な木ではないのです。私たちは愛すること、不道徳、貪欲、嘘に苦しんでいます。パウロはそれを知ってい

ます。しかし彼はまた、小さな実がそれでも成長していること、そしてその小さな実が、世の闇を暴く光を生み出すものであると知っているのです。

数年前、ある本を読んでいたとき、こんな疑問を持ちました。「福音は今日のあなたの人生に重要ですか？あなたがクリスチャンになった 10 年前や 20 年前でもなく、あなたが天国に行く未来でもなく、今日です。福音は今日のあなたの人生にとって重要ですか？」

答えは「はい」であるべきだとは思っていました。しかし正直なところ、私はその理由はわかりませんでした。ポール・トリップとティモシー・レインが書いた『人はどう変わるか』という本を読んでいて、ようやく答えがわかったのです。

私はイエスを信じたので、神の子です。しかし、私の中にはまだ多くの罪があります。恨み、怒り、不道徳、貪欲、欺き。では、私はどうすればいいのでしょうか？私には福音が必要です。

これらの罪に気づいたら十字架にいく必要があるのです。そして…
自分の罪を告白する。
イエスがこれらの罪のために十字架上で死なれ、よみがえられたことを信じる。
自分の罪を赦してくださり、主の力で罪を克服できるように助けてくださいとお願いする。

これが福音です。私たちは今日も福音を必要としています。福音によって：
私たちは、配偶者、同僚、友人など、誰であっても自分を傷つける人を赦し、愛することができる。
不道徳や貪欲との葛藤を克服し、清廉で満足を学ぶことができる。
私たちは常に真実を語り、主が私たちの面倒を見てくださると信じることができる。

そして、このような段階的な変化、小さな実りを通して、私たちの周りにいる人々、特に私たちの家族あるいは同僚や友人が光を見るようになるのです。自分の罪が見えるようになるのです。だからパウロはこう言っています。「**眠っている者よ、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる。**」

そして、暗闇の人生にうんざりしている人たち、つまり、恨み、不道徳、貪欲、欺きの人生にうんざりしている人たちは私たちがなぜ輝いているのか知りたくなるのです。福音を分かち合う準備を整えてください。
彼らに知らせなさい：
私たちも彼らと同じように罪深い。
イエスは私たちのために死に、よみがえり、私たちに助けを差し出してくださる。
私たちを赦し、私たちを変えてくださるよう、イエスに求めたので、私たちは今輝くことができる。
相手もイエスに助けを求めたいかどうか尋ねましょう。

こうして私たちは輝き、他の人を光にさらし、他の人もイエスにあって輝けるようにするのです。
もしクリスチャンでない家族、同僚、友人が私たちの中に光を見ていないようであれば、私たちは次のように自問する必要があります：
私たちは彼らにとって光となっているだろうか？
私たちがどのように敵を犠牲的に愛しているか、どのように不道徳、貪欲、欺き、そして
他人を傷つける言葉に抵抗しているか？
それとも、怒りや不道徳や貪欲を見せ、彼らとともに闇に参加しているのだろうか？

もしそうなら、今日、私たちは十字架に立ち返る必要があります。そしてイエスに、赦しをこい、変えてくださるようにお願いしてください。きっと願いは聞かれるでしょう。

そして、もしあなたがクリスチャンでないなら、イエスのもとへ来るよう招きます。あなたは闇から解放され、イエスにあって ”光 ”となるでしょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg4723jp

★クラス 201
クリスチャンとして成長するには
11月 26 日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件: クラス 101 を修了した TBC 教会員

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1．日本語字幕オペレーター
月 1～各礼拝の時間の日本語字幕のページを矢印キーを押してめくる作業。コンピュータースキルはいりません。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2．日本語訳字幕作成
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1，2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

3．週末礼拝メッセージ翻訳
1 か月半に 1 度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
スキル：英語と日本語が堪能な方

4．日本語訳レイアウト＆印刷（女性募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の簡単な操作ができる方。英語のスキルは必要ありません。

*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org